

倫理審査申請書

2022年1月11日提出

東京ふれあい医療生活協同組合
倫理委員会 殿

申請者：

所属： オレンジほっとクリニック

役職： 同所長

氏名： 田邊 幸子

申請番号 (事務局記載)

1 研究課題名	「人権を尊重したケアの工夫～オレンジほっとクリニックでの取り組み～」
2 研究の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 症例報告 <input type="checkbox"/> 疫学研究 <input type="checkbox"/> 臨床研究 後ろ向き観察研究 <input type="checkbox"/> 臨床研究 前向き観察研究 <input type="checkbox"/> 非ランダム化介入研究 <input type="checkbox"/> ランダム化介入研究 <input type="checkbox"/> 質的研究 <input type="checkbox"/> 混合研究 <input type="checkbox"/> その他 (判定困難含) ()
3 研究内容とその概要	令和3年10月日本高齢者虐待防止学会より「人権を尊重したケアの工夫」をテーマに、医療施設の立場から地域在宅実践報告の依頼を受けた。そのためオレンジほっとクリニックの取り組みとして1事例の症例報告を行う。
4 実施者	所属：オレンジほっとクリニック 氏名：田邊幸子・平原佐斗司・中塚智子・武安眞珠
5 研究期間 症例数など	2022年1月 症例数 1
6 実施場所・多施設共同研究 他の倫理審査	オレンジほっとクリニック
7 倫理的配慮	① 人権の擁護：研究対象者の個人情報保護と管理方法、匿名化の方法

	<p>個人情報とは生存する個人に関する情報であるため個人情報保護法は該当しないが、プライバシー保護として患者個人が特定されないよう匿名化を行っている。</p>
	<p>② 対象者に理解を求め同意を得る（インフォームド・コンセントの取得） 患者本人は他界されているため同意を得ることはできない。</p>
	<p>③ 研究等によって生じる個人への不利益及び危険性なし</p>
8 費用負担	<p>④ 医学上の貢献の予測</p> <p>2020年より我が国はコロナウィルス COVID19による世界規模の未曾有の大災害に見舞われ、その影響下において、認知症高齢者の多くももれなく外部から閉ざされ孤立した。我々、認知症疾患医療センターでは受診行動につながらない認知症者に対してアウトリーチという形で往診を行っている。アウトリーチとは、医療的困難を抱えているにも関わらず支援にたどり着かない者を支援につなぐ方法として開発されたものである。</p> <p>認知症サポート医への相談内容はBPSD以外にも家族介護負担に関するものが多いが実際アウトリーチとなるケースはBPSDとADL低下が半分以上を占めておりセルフ・ネグレクトを含む社会的問題は1割以上であることがわかる。高齢者の虐待、特にセルフ・ネグレクトは大きな社会問題でもあり、我々のセルフ・ネグレクトへのアプローチを通して人権を尊重したケアの工夫を報告することで、地域共生社会の構築を図りたい。</p> <p>⑤ その他</p>
9 添付資料	<p>なし</p>
	<p>① 投稿原稿</p>

通知年月日 事務局記載	年 月 日	通知番号 事務局記載	
----------------	-------	---------------	--